

都市幼児教育の問題 (一)

— 或る講習會の速記 —

倉 橋 惣 三

(一) 幼兒に對する都市文化の過重

この問題はお互の從事致して居ります都市に於ける教育に就いてであります。その都市といふ條件を基にしてお互に日々の研究或は工夫がなされて居ることは申すまでもないことあります。この頃郷土教育といふことが盛んに云はれますが、これは郷土の長所を教育の中に入れて来るといふところがその根本の主張であります。若し郷土に長所でない…… 缺陷云ひますか、短所でもありますれば、之を考慮しますのも亦郷土教育の一つの問題かと思へるのであります。

偕て幼稚園を基にして一つ考へて見ますと、幼稚園は例へば文部省幼稚園令に依つて示してある所に據りますと、何處の幼稚園にも當嵌まる幼稚園の目的が掲げてあります。併しながら幼稚園の本質は…… 一般教育に於てもさうであります。るけれども、尙更相手を主として居る性質のものであります。教育をするために子供を呼んで来たのではなくして、子供の處へ教育を持つて行くのであります。その子供の必要に應じて、子供の事情に従つてその教育は非常なる融通性で申しますか、變化性を持つてゐなければならぬものである。幼稚園はかういふものであるといふことをよく云ふ人がありますけれども、これは斷言的な話でありまして、この子に必要な幼稚園はさうだと思へなければ本當になつて來ないと思

ふ。國民教育の方面から申しますれば、自らさう融通は付ける譯にも行かぬ所があらうかと思ひますけれども、幼稚園の場合に於きましては、少くもさういふ風に考へて然るべきものかを考へます。

然るに私の密かに心配します所では、田舎に行きましても、山の中に行きましても、海邊に行きましても、森の中に行きましても、大都市に行きましても同じような幼稚園が行はれて居ることであります。勿論先生は、田舎の先生と都會の先生とは御風采からして大變に違つて居ります。流石都會の幼稚園らしいスマートな、シツクな先生を以つて構成されて居りますけれども、併しそのやつて居りますことに就いては餘り變らないと思ふ。これで果して宜いかさうかといふことは大きい問題であるを考へます。

更にその問題を少しく外の方面から考へてみますと、一體幼稚園といふものが今日は何もフレーベルの幼稚園その儘を傳統致して居るのではなくて、我等の幼稚園をこゝに仕立てゝ居るのでありますけれども、幼稚園といふものゝ歴史の概念をフレーベルまで遡つてみたを致しますれば、フレーベルの幼稚園は田舎幼稚園である。フレーベルが初めて幼稚園を設けましたブランケンブルグは全く田舎であります。又ルーベンスタインも實に田舎であります。森の中である。そこに集つて來て居ります子供は皆百姓の子供でありまして、ある人の書いて居ります所に據りますれば、靴を穿いて居る子供は極く少い、とあります。これは所謂都市にあります細民窟——といふ言葉は不適當であります。さういふ地區の子供達が貧しい風をして託兒場に来るのとは違ひまして、必ずしも貧しいといふ譯ではないのであります。土に親しむ所の素足の生活を親も子も皆がやつて居りますその田園幼稚園であります。私はルーベンスタインの幼稚園を見まして、全く森の中でやつて居る幼稚園であるを考へました。そのフレーベルの考の中には、田舎であらうが都會であらうが、幼兒の自己活動を尊重するといふ不變的な教育哲學を持つて居りますけれども、そのフレーベルの考へて居りました、そし

て實行しました幼稚園は森の中で田舎の子供にした幼稚園であつたのであります。その幼稚園が時代に依つてぎんぐ變つて居りますが、偕てその田舎でやりましたフレールの幼稚園は、何も田舎の子供にふさはしくさいふこをそんなにフレールが意識したかぎうか知りませんけれども、我々が都會の子供に對して今日ぎういふこを餘儀なくされて居るかさいふこはフレールの頭に考慮してなかつたのであります。そこで若しフレールの幼稚園をこゝにその儘持つて來たさしますれば、これは田舎の人にふさはしいものを都會に持つて來たこになるのでありまして甚だ考慮の足りない問題になつて來るか考へるのであります。

これは又全くそれを裏返したような言ひ方でありませうけれども、我國に於ける幼稚園の發達は、他の教育も大體同じように、都會本位に發達して參りました。殊に我が國が取入れて來ました亞米利加の幼稚園は、都會幼稚園の形式を取入れて來たのでありまして、そのために初から都會で出來たものであるから、別に特に都會さいふこを意識しない風もあるかと思はれる。田舎で出來ました幼稚園をその儘繼いで居るさいふ意味からは、都會の子に對する特別な考慮が自ら拂はれてゐない。都會の幼稚園をその儘繼いで來たさいふ意味に於ては、都會さいふものに馴れて、特別な意識をそこに持たない。さちちから致しましても、我々には改めて自分の幼稚園が都會にあるのださいふこに就いてはつきりした認識を持つ必要があると申し得るかと思ふのであります。

そこでその所謂都會さいふものは如何なるものであるか。ぱりくの都會つ子の皆さんに、都會を説明する必要はない。併しながら始終都會にみらつしやる皆さまこしては、或は都會さいふものに確かに馴れ過ぎておいでになるかも知れない。私は中野の田舎に住つて居ります。殊に、勤めて居ります處は小石川大塚の東京としては田舎の方であります。久し振りに神田に參りまして、駿河臺下なぎを通ります、實に都會さいふものを感じる。田舎者が東京に出て來まして、都

會を頻りに感じて居る所であります。確かに皆様もさうかと思ひますが、夏休みを利用して都會を離れて居りまして、久し振りに東京に歸つて來るに、都會さういふものを非常に感ずる。私は夏休みの後半部を岩手縣の方の温泉で靜かに暮して居りました。それから東京に歸つて來ました所が、一日二日さういふものは、何等自分さういふやうな氣持がしないのであります。焙烙の中の豆が色々炒られて居るのを見ることがありますが、あの豆はさぞかしこんな氣持がしてゐるのではなからうかさういふやうな氣持がします、何だか自分さういふものがはつきりそこに落付いて見付からないように、たゞ騒がしさの中に置かれて居つたやうな氣がしたのであります。その音さういふ、その光さういふ、そのざはめきさういふ、何から何までそんな氣持がします。私の子供が申しますには、さうも壁が見えて仕方がない、屋根が見えて仕方がない、眼を離せば山が見え、森が見えたその眼にもつて來て、この都會のがつちりした建築さういふものは非常なる威壓を與へる。暫く都會を離れた者から都會を見ますに、實に都會さういふものが特殊な場所であることは理窟では誰でも知つて居るのであります。が實感に於て自分に感ぜられるのであります。これは私共がその都會の中で何さうかやつてゐなければならぬし、又我々が一度都會に來たら直ぐに神經衰弱になるさういふことでは、現代の生活に處すべく餘りに弱いのであります。又我々の小さい子供に取りましては、都會さういふものがそんなに壓迫的な、威壓的なものであるかさういふことは十分察してやりたいと思ふのであります。都會に生れました子供は、極めてふさはしくない處に生れて來たものであると思ひます。東京で育つて東京の道路を横切つて幼稚園に行きます子供は、随分哀れな境遇な子だと思ひたいのであります。その大都市が子供に及ぼして居ります影響を別に分解して申上げる迄もありませんが、一つ滋味はつて置きたいのであります。偕てそれを味はひました所で、それに對する結論は二つに分れるかと思ふ。その一つは、かういふ都會の中に育ち、やがてかういふ都會の中に活動する子供でありますから、出来るだけ都會的に馴らして置かなければならぬさういふことさうい

つであります。都會の激しい刺戟に平氣になるように小さな時から鍛えて置かなければならぬといふことも一つの結論として生じて來るのであります。併しもう一つの結論は、何分にもあの柔かい、いたいけな子供に對しまして、この都市の不適當なる文化的過重といふものを少しでも柔らげてやりたい、救つてやりたいといふ深切は起るべきものと思ふのであります。一體教育といふ仕事は、そんなことでござうるか云つたようなことが教育者の癖でありまして、そのいかつい教育者の態度から云ひますと、都會の子供は一層激しく都會生活の中に抛り出して行かなければならぬといふ風に結論が向ひ易いのでありますけれども、又子供といふものに則して、やさしく考へる氣持から致しますれば、私共はもう少し子供をいたはりたいような氣持がするのであります。いたはるこいふことは、たゞ感情的なことでありますが、何も都會の子供にさうもご苦勞ですごか、大變でせうごか云はなくても宜いのでありませうが、都會の文化過重に對しまして、さういふ結果が子供の精神の上に及んで來るかご考へますと、單に勞はるこいふだけに止まらずして問題は起つて來るかと思ふ。この激しい刺戟を受けて居ります子供は色々缺陷も生じるであらうが、要するに中心的な生活を失つて來るものであります。或は内部的な生活を失ふご申して宜しいかも知れない。何にしても刺戟が多いために、その刺戟に反應する反動が常に行はれて居るのであります。若し今日の東京に於て中心的な生活が續きましたら、體が幾つあつても足りないと思ひます。私は自動車のために轢かれる者は皆哲學者であらうと思ふのであります。自己こいふものを色々考へて居るために、横から來ます自動車にも氣が付かないで轢かれてしまふのだと思ふ。轢かれなないためにはごの位我々の神經を外に向つて忙しく使つて居るか分らない。さうせ疲れる神經でありませうけれども、外に向つて使ふ疲勞が多いために、内に向ける生活が少しも養はれないで、子供が成長するために勞はるこいふことよりもつご大きな問題になりはしないかと思ふのであります。この内に向つて行くこいふことは、人間が眞實に生きて行きます上に缺くべからざることであると思ふ。我

我は外からの刺戟に反射して行きます時に、間に合ふ所の氣の利いた上手な巧みな生活が養はれて行くのでありますが、生活の眞實性といふことに於ては内に向ふ傾向が小さな時から養はれて居る必要が大いにあるを考へる。これが私の都會に育つて居ります子供に就いて非常に心配するのであります。かう申しますと都會に居る人は皆無眞實のやうでありますし、その中で眞實を養つて居る皆さまは實に偉いといふことになるが、小さな子供を我々は一體さう教育しようとして居るか云へば、何を措いても眞實のある生活を養ふといふことは勿論のことです。その眞實性の反對の方向に行つて居ります都會の生活といふものに就いては、これは勞はるべきより、もつと深い心配を私共に與へるものではないか考へるのであります。

その内に向つての眞實といふことから、もう一つ次の問題に移りませんが、その眞實といふものは中の方に滲えて居るものであります。その中の方に滲えて居りますものが、本當の中の方から泌み出て来るといふ力が都會の子供に於て無くなつて来るかと思ふのであります。外から遇ふものに反射して行く働きが出来る、あのラッシュアワールの十字路を巧みに通り越して行く、といふ方法を違ひます。眞實性が中に先づ養はれないのみならず、その中に持つて居るものを泌み出して行くことが出来ない。その泌み出して行くものを二つに分けて、感情としては潤ひでありますし、智能としてはオリヂナリチー即ち創作創造の力であります。ものを造り出して行くといふ中からの働き、中から泌んで来る感情の潤ひといふものが、都會の生活に於ては非常な危険に曝されて居るを考へて宜いかと思ふ。かういふことを幾ら誇張して申しましてもきりのないことであつて、幾らでも強くかういふことを考へたいのであります。これは皆さんもお考へになつて居ることと思ひます。さういふ危険の中に、さういふ眞實を日々に敢へて侵して居ります子供達を、都會で遊んで居るのを見る時は、非常に心配する。あの車に轢かれはしないかといふ憂もありますが、その外に、あんな處であゝ氣を取られて遊

んで居つて、中の眞實性が何時養はれるであらうか。或は中から本當に泌み出て來る生活が何處で出來るだらうか、こゝの子供に就いて心配になるのであります。然もその子供が皆様の幼稚園或は低學年に、厄介になつて居る。私は先づその缺陷に就いて先に考へてやる義務が都市幼稚園にあると結論したのであります。

(二) 都市幼稚園の特殊使命

幼稚園とは一體何だといふことをこちらから臆立して持つて行きます前に、こゝに來て居る子供はこんなものであるといふことを基にして行かなければならぬ。皆さんの仰しやる、教育よりも先づ先に子供を愛する、といふことはさういふことを言ふのではないかと私は思ふ。人をその缺陷に於て見、人をその弱點に於て勞はるといふことに於てしなれば、愛といふ言葉は使ひ途がないと思ふ。疲れてゐるやうがみんな感情にゐるやうが、教育は教育、幼稚園は幼稚園といふことでは、甚だこまやかさの足りない態度ではないかと考へるのであります。殊に幼稚園令の第一條が示して居ります所をも、う一度見直してみますと、「幼稚園ハ心身ヲ健全ニ發達セシメ」を書いてある。心身を健全に發達せしめといふことは、幼稚園に於て特に積極的にさういふ工夫と努力をすることが要求されて居るものでありますけれども、家庭社會の環境に於て心身の健全なる發達をみすく、害はれて居るといふことを考へた時に、私共は先づその缺陷をさうして補つてやらうかと考へなければならぬ。「幼稚園ハ善良ナル性情ヲ涵養シ」いふ言葉がありますが、善良なる性情といふものは、先刻私が申しました眞實さか、中から泌み出る潤ひさかといふものであらうと考へるのであります。都會の日常生活にそれがこんなに缺けて居る子供だといふことを見た時に、あの言葉を積極的に行ふ前に、その缺けて居る所を如何にして補ふかといふことが先づ私共の心に起ると思ふ。又「家庭教育ヲ補フヲ以テ目的トス」とありますが、家庭教育を補ふといふのは、屋根屋

を架す云つたように、家庭教育の上にもう一つ教育を付加へるこいふ意味でもありませんが、家庭教育があらさまに缺けて居るこを補ふ意味であるこは申すまでもないこして、今日お互の幼稚園に來ます子供は家庭教育云ひますけれども、その家庭の置かれたる社會環境から來る缺陷をその通り受けて居るこすれば、それを補つてやらなければならぬ。

そこで私は敢へて皆さまにお尋ねしたい。フレーベルの教育哲學、或はこの頃色々新しく出ました兒童の一般心理に基いての教育の御努力が澤山ありますと共に、あからさまに弱點を持つて來て居りますあの不幸なる子供のために、この程度の御考慮を拂はれて居るかこいふ問題であります。この都市幼稚園こいふ特殊性に於て眺めました時に、こうしても我がの考へて行かなければならぬものがあるかこ考へます。

偕てそれならば、都市幼稚園はこいふこに依つてその子供達の要求を満し、その缺陷を補つてやるかこいふこを考へなければならぬ。私は都市幼稚園こいふものは先づ子供を憩はせる場所でなければならぬ、こ思ふのであります。皆さんはこいふお考があるか知りませんが、朝、あの、實に親知らず子知らず云つたやうな處を幾つか踏切つて來たり、或は満員電車の中で揉まれて來た子供を、顔を見るこ直ぐ、そら兒童教育をしようこいふやうなこは、随分無理な話であるこ思ひます。旅人が來ましたならば、兎に角まあお疲れでございませうからお休みなさいまし、色々こちらからお目にかけていこも、お話ししたいこもあるけれど、まあ、お休みなさいこいふのが、一つの情ではないかこ思ふのであります。あの都會の子供に對しては、大根畑を通り越して來た子供、森の中を通つて來た子供は全く違つた、教育の外に、勞りこいふものが都會の幼稚園には溢るゝばかりになければならぬこ思ひます。これは先生は自ら勞はつておいでになる。先生は朝早くおいでになりまして、まあ、一つ勞はれこいふので、子供が來る頃には先生は勞はり

が濟んで居りますから、子供の顔を見るに、さあ〜と云つて教育の方をお急ぎになる。これは結構である。教育を一刻も忽にしないといふことに就いてはこれ位結構なことはないけれども、私が子供ならば、一寸先生の顔を見て、私が今こゝに来るにはどの位疲れて居るか察してくれませんか云ひたいのであります。その勞りといふものは朝來ました時ばかりでなくして、それからもずつ必要であると思ふ。出来るだけあの子供に都會で得られない静けさを與へてやりたいと思ひます。都會の中にある幼稚園——窓の外を自動車の通つて居る幼稚園——併しながら我々の造つて居る幼稚園は都會の子供のためには、何の彼のいふ教育の前に、先づ綠の潤ひのあるオアシスでありたい。この中に來ましたならば、そこでこれをしてあれをさせていふ幼稚園としての色々なお仕事もありませうけれども、取敢へず休めてやりたい。今日の幼稚園がその點にきりだけの考慮が拂はれて居るか。多少の懸念を持つのであります。亞米利加の幼稚園で：：今から十年も前のことでありませうが、一時大變に問題になつたことがあります、それは手を叩くことである。この頃は餘り幼稚園で手を叩かないでせうが、昔は幼稚園に云へば手を叩いたものである。子供を集めまして、當り前に歩けば宜いのに、手を叩いて歩いたものである。子供も一緒に手を叩いて歩く。殊に先生は後向きになつて手を叩いて歩くのが幼稚園の恰好でありました。さあ歌を歌ひませう、頻りに手を叩く。子供も矢張り手を叩く。之を亞米利加の人が大變心配しました。さう始終びしやく〜（笑聲）やつてゐては頭の休まる時がないではないか、之をやめようといふことが、その當時頻りに論ぜられたものであります。この手を叩くといふことさへもこの騒がしさの飽滿し切つて居ります子供には與ふべきことではないと思ひます。まるで砂糖屋から來た子供にお菓子を食べさせるようなものであります。或は都會の子供は屢々手を叩きます。これは疲れて來るに興奮するためであります。今皆さんは私の話を靜かに聽いてゐて下さいますが、段々お疲れになりますか何となくざわ付いて來て、私の話が面白いから興奮したのかと思ふ

ミ、そうでなく、疲勞の興奮であつたりする。(笑聲)殊に先生のピアノたるや實に腕力的音楽であります。(笑聲)その腕力的である先生も亦疲れて居りますから、腕力位出さなければ手應えがしない。さあやませう。非常時こい……(笑聲)ミ云つたやうな力でやるものであるから、さなきだに疲れて居る子供は尙ほ疲れてぢつミして居られません。子供は實は靜かなこゝが好きであります。先生の傍にやつて來まして、先生、ミ顔を見上げたりする。さあ來いミ云へば、さらばこいふやうなこゝで(笑聲)反應して參ります。靜かにしてゐたら宜しいのであります。幼稚園で子供が時々ぼーつミして居るのがあります。何だ子供のくせに生意氣な、初秋の空を眺めて、なんて云ひますけれども、ぢつミ空を眺めてゐたりする子供があります。あのぢつミ見て居るのは、矢張り子供の中には靜けさこいふものゝ要求があるためであります。自ら自分の心を勞はらうミする人間の要求があります。何も隱居さんばかりではない。けれども餘り靜かばかりは子供に勿論ふさはしくありませんが、子供ミは興奮するものである、子供ミは活動するものである、さあ來いミ云つてやるばかりが私は子供の本當の生活に觸れる途ではないミ思ふ。その子供が靜かにして居る時にがさくミやつたらさうか。ラヂオを各公園に据へ付けたらさこいふこゝを考へて見たこゝがある。公園にラヂオをかけてやれば皆がただで聽けるから宜からうミ思つた。所がある公園の専門家が私に教へてくれました。それは非常に間違つて居る。公園こいふ處は、それは其處に來て遊びたい人があらうし、そこへ來て靜けさを味ふ人もあるのだ、そこへもつて、たて續けにラヂオが鳴つて居つては公園の靜けさに對する任務を果せなくなつてしまふミ云はれまして、なる程ミ思つたこゝがありますが、子供が幼稚園に來るのもさういふ氣持があるのではないかミ思ひます。何しに來ましたかミ聞いた時に、家では狭いから幼稚園に來て大いに暴れようミ思ふさこいふ子供もありませんが、何分隣りがカフエーでせう、そして朝から晩までジャズでせう、又一方の隣りが鍛冶屋さんでせう、そこで私の心を勞はらうミして、幼稚園は私の心に靜けさを與へるかミ思つ

て來ました、さいふ子供もあらうと思ふ。それを腕力的ピアノノ手叩きで以つて征服してしまふのでは、私はさうも心遣の足りない所がありはしないかと思ふ。皆さんはそんな無情の方ではない、教育の名に於てその過ちをなさるのではないかと私は思ふのであります。そこで先づ靜かさいふこを是非欲しい。何さかして靜かにしてやりたいものであります。都會なればこそ靜かにしてやりたいと思ふ。都會の幼稚園の建築で一番大事なことは、この頃亞米利加邊りでも認めて居りますが、防音装置であります。防音装置に對する考慮が十分に拂はれてあるかないかで、この問題に關心を持つて居るかさうかさいふここの證據になつて來る。

第二には、何分都會の生活に於て伸びやかに自分を生活させることが出來ず、殊に都會生活は大人の便利の方から餘りに組織立てられて居りますので、雄大なるのんびりした氣持さいふものが味はへないのであります。田舎の子供生活——見るからになだらかな山のスロープ、廣い野原、想像しても羨ましい程ののんびりしたものさ比べます、鐵筋コンクリートさがちくしたアスファルトで固くなつて居ります。そこへ來ます子供は鐵筋コンクリートが洋服を著たような顔をして居る(笑聲)。さういふ間にはさまつて居る人間が何處かでいきを付きたい、靜けさなんさいふをつなものであるが、少し精神的のいきをつきたい。之に對して幼稚園さいふものはさうしても非常なる伸びやかな世界を與へてやらなければならぬと思ふ。私は幼稚園に就いて、子供を出來るだけ劃一的でなく、規則的でなく、きちんく取扱はないで、まあくさちらかさ云へば、出來るだけ子供の自由を尊重してやりたいさいふ氣持を有しますのは、保育の教育哲學の方面から云ひましてもさういふ結論になります、殊に都會幼稚園に於て伸びやかさを與へたいさいふこからそのこを主張したのであります。

今日の幼稚園では、朝子供が來ますと、直ぐに先生がみんな揃ひましたかき仰しやる。これは小學校の先生もさうかき

思ひます。これは軍人に教育者の口癖であります。揃ひましたか？と仰しやる。揃はなくては何も出来ないと思つて居るのが一つの通例であります。子供は揃はうなんて思つて幼稚園に来るのではありません。御神輿でも擔がうといふ時には、さうだいい若し揃つたか……(笑聲)揃はなければ擔げませんから必要ではありませんが、子供の世界には揃ふなんていふことは少しも必要がありません。所が疲れた先生はさういふ形式に陥ちます。そこで一人々々の子供なごは眼に入らない。さうして揃つたか揃つたかご仰しやる。揃つたら並びご仰しやる。並びためにはきちつと揃はなければならぬ。實に今日の幼稚園の中に揃へるさういふ氣持がごの位はびこつて居るかごいふことは、皆さんがお考へになつたなら分る。その揃へるさういふ要求が子供の伸びやかさに對して非常な害を與へるものであるご私は考へて居る。さうでせう、ぶらつご來て、一段殖えて、段々にその生活をして、あゝあなた來たか、お前もゐたのかごいふ位のことで幼稚園は宜くないかと思ふ。一朝來たのを集めて、人員點呼をして、誰が何分遅れて、何の組は出席はさうで、赤い丸青い丸を貼付けて、幼稚園が見えるご遅れはしないかごいふ心配を子供にさせるごことは、訓練から云へば必要なことでせうけれども、私は、子供が餘り可愛さうですから、訓練の方を引込みます。そんなごことで教育が出来るかご仰しやるならば、私は教育しないで子供を可愛がる。教育よりも子供を可愛がる方がごの位大切なごことであるか分らぬのであります。子供が揃へるさういふ要求のためにごごぢない形式の中に入れて、集つて來る、揃つて仕事をする。一體何をしましたか。揃へた(笑聲)。それで終つてしまふ。あなたはごの頃かなり上手になつた、あなたが一寸睨むご揃ふ、ごいふやうになつて來ました(笑聲)。皆さんの家へお客さんが來ました時に、そんなに整列させる人はあるまいと思ふ。さうかも少し子供を自由にさせたいと思ふ。自由ご云ふごごさんになるかご思ふ方があるかも知れませんが、子供は自由にご云つてもそんなに自由にはなりません。止めようごするから自由を戀しがる。自由にやらして御覽なさい。幾らでも食べなさいごいふご、子供はそんなに食べ

やしません。止せ止せといふから頻りにつまみ食をしたくなるのであります。自由を與へた所で同じことでもあります。そんなに反則はないと思ひます。都會の窮屈な生活から幼稚園に來ました當座は反動的に一寸やるか知れませんが、幼稚園はさういふ處だといふ感じが十分沁込んでしまへば、安心して子供は自由に止まつて居るものと思ふ。その所謂窮屈なことを私は出来るだけやめたいと思ふのであります。幼稚園がきち／＼した時間割で行く遣方に就いて私は餘り賛成を表しない。所謂時間割主義は先生の計畫としては實に大事なことであるし、愉快なことであつて、少し神經衰弱になりかけて居るやうな人が作つた時間割を見るに實に大變なものである。何分何秒この秒をよさうかさうしやうか色々考へて居る(笑聲)。汽車の時間割を見ますと、何分に止つて何秒に出發すると書いてあるけれども、實に汽車にはあの秒が關係して來るのであらうと思ふけれども、幼稚園の生活なごには秒などは必要がなく、分なごもさうでも宜いと思ふ。その伸縮自在の中に子供を置くに、外のことは兎に角として、伸びやかさが味はひ得ると思ふ。實驗教育學の方で、幼稚園幼兒の疲勞問題なごを考慮します。さうして比例を取りまして、何歳位の子供は何分するに疲勞するかといふことが分るに、それを頻りに持つて來る人がある。お前はもう止しなさい。學術的にもう疲勞する時間だから止しなさいといふ譯です(笑聲)。それから何分するにあらう何分遊び、又何分仕事をする。そこへ又揃へるが手傳つて來て、時間割をきち／＼こやる。あれだけが既に幼稚園の子供には無理な話だと思ふ。私はさうしてもあの窮屈なことをしなければ出來ないなら、幼稚園は寧ろ一寸考へものだと思ひます。もつと自在の中に幼児教育は幾らでも出来るに私は考へるのであります。が、先づ時間割を非常に自由なものにしたいと思ふのであります。

殊に私は幼稚園に就いて所謂纖細主義と云ひますか、非常に細いことをやる風が幼稚園にありますのを反對する。殊に早い話が手技手工であります。私の話を幾度聽いても宜い多田先生が云つて下さいましたから、私も幾度でも云ひます

が、實に小さいこころをする。幼稚園に云へば小さいこころをするものと思はれて居る。それは細い指では細いこころをすれば宜いこころ考へるのは間違であつて、素人らしい考でありますが、指が細くて能力が低いから大ざつばなこころだけしか出来ないこころ考へて然るべきかと思ふのであります。實際幼稚園では本當に小さなこころをさせる。私がフレーベルの幼稚園を訪ねました時に、フレーベル時代にやりました手技があんなに小さなものかといふこころを頻りに考へた。これはフレーベルの弟子達に小器用な人があつて、自分で教育の方針を忘れて小器用なこころをやり出して、それで幼稚園の繊細主義といふやうなものが行はれて来たのではないか、その以前に於てなされたものも少し大ざつばかと思つて、色々古いものを探して見ました。フレーベルの時代かどうか知りませんが、其處に昔からあるものを見ます。やはり小さな紙のものがやつてある。私は非常に情ないと思つたのでありますが、又思ひ返して、こゝへ来てこの小さなこころをやつた子供は百姓の子達であるといふこころを考へた。實に大きな斜面に大きな平原に大きな牛に大きな豚に、大まかな生活で、飯を食ふにした所でこんな大きな茶碗だし、お母さんだつて、こゝして大きい。ズボンにした所で折目のない、脚が五、六本入りさうなズボンを穿いて居る。都會の子供は全く反對の生活の中に居ります子供がフレーベルの幼稚園に來ました時に、フレーベルはこれは少し筋肉を動かす練習をしなければならぬこころ考へたらうと思ふ。であるからフレーベルがあの小さなこころをさせたのは、幼兒の生活に向つてといふよりも、その田舎の大ざつばな子供に對してといふのであつた。大規模のこころは皆家でやつて居るのである。土をいぢつたり丸太棒を擔いたりするこころは家でやつて居る。そこで幼稚園に來た時には小さい方の筋肉を使ふこころの練習をやらしたこころも無理もないと思はれますが、今日の都會に於ては、子供の心に對しましては總て實に繊細な刺戟ばかりあるのであります。せめて幼稚園に來た時には大まかなものにしてやりたいと思ふ。大まかであるから、不細工でせう。不細工主義でも宜しい。餘り器用小細工に几帳面に云つたやうなこころを捨て、大き

なものをやつたら宜いでせう。都會の子供はけちくして居りますから、大きな紙を澤山やつて折つてごらん云へば、初の内は目を廻すか知れませんが。小さなものを拵へるように大まかなものは折目が旨く行かなければ、踏んだりして作るような大きなものを拵へさせて、花一つ作る云つても大ざっぱなことをやれば、少しは窮屈な生活から救はれるかと思ふのであります。幼稚園に拜見に行きまして、小さなものが竝んで居るのを見ます、私は實に子供のために悲しくなるのであります。あの小さなものは年寄が好きである。年寄は自分の神経が少しづつこして來るので：私はよく知りませんけれども、さうだらうと思ふ：：せめて何か小さな所へ自分を纏めて行きたい。そこで米の粒を見たならばその中に千字文が書いてあつたさういふやうなものが面白い。眼が見えなくなつて來るさういふものが見たくなつて來るのであります。所が子供の神経はさういふ要求をしてゐない。外へ外へ伸びて行かうとして居る。それを押へて小さなものにしてやうこしない方が宜しい。總て伸びやかにありたいと考へて居るのであります。子供の遊戯なきに就いても同じことを考へますが、これは後に詳しく申上げたいと思ひます。

第三には、幼稚園には精神的方面から云ひましても、施設の方面から云ひましても、潤ひさういふものを與へたいと思ふ。都會の生活が乾燥したものでありますから、幼稚園には是非潤ひを與へたい。その潤ひを與へるには、精神的潤ひから云へば、先生の心から泌み出る潤ひであります、その施設に於ても色々しめつぽさを與へてやりたいと思ふ。子供が來ます前には、都會の幼稚園では必ず入口に十分なる打水をして置きたいと思ひます。都會の幼稚園には必ずしめり氣のある植木鉢を置きたいと思ひます。そこへ來るさういふのが現代都市運動であります、中々さういふことは出來ないかも知れませんが、せめて幼稚園だけはさういふ風にしてやりたいと思ふのであります。さういふ静けさか或は伸びやかさか或は潤ひさか

いふものを與へまして、都會生活の中で締付けられて居ります窮屈な子供に樂をさせてやりたいと考へるのであります。色々さういふことを考へます外に、又都會の幼稚園の先生はかなりそこに氣を付ける必要があると考へるのであります。都會幼稚園の入口には青いものがありまして、水が撒いてある。子供がそこへ入つて來ますと、先生が靜かに取扱つてやるのでありますが、その先生その人が亦、餘程さういふ方面に合致してゐなければならぬと思ふのであります。先生そのものを都會幼稚園に於て合致させるといふことは、甚だ植木なぎを作るよりもむづかしい話でありますけれども、こゝでお見受けしました所、さういふことはないのでありますから、遠慮なく申しますが、時々この頃の幼稚園の先生に私のような氣の小さい者は見ただけでびびくりするような舞臺化粧をする人を見受けることがあります。殊にこの頃の化粧といふものは都會の忙しい中で眼を惹くように考へて居ります。當り前のことでは人が見てくれませんか、みんな忙しい人でも眼を惹かれざるを得ないようにやります。そのために着物の關係から云ひましても、化粧の關係から云ひましても、大變に濃艶なものになつて來た。殊に疲れて疲れて疲れきつた者がその疲れを刺戟的に慰められるといふよりも、刺戟的にもう一つ興奮させられるようにやるあの舞臺化粧と云つたやうなものが一體に入つて居るのであります。皆さんはかういふ御經驗があるかどうか知りませんが、舞臺ではレビューガールでも役者でもそんなに目立ちませんけれども、樂屋で會ひますと化物かと思つてしまふ。あの遠距離に於てあのまぶしい中を目あてましてやつて居ります化粧が、幼稚園の先生の風の中に入つて來たならば、大變なことであると思ひます、子供は往來では色々な人に遇ひませう。あんな氣狂のやうな人が満員電車にぶら下つて、然も頻りにおしやれしてゐるのを子供は色々眼に付きませう。併し幼稚園へ來たら、先生がその顔と云ひ、その着物と云ひ實にこれおばさんと云つたやうな風でないといけない。私は幼稚園の子供がその先生から受けるファースト・インプレッション即ち第一印象は實に子供の心を豊かにしてやるかどうかにあると思

ふ。これは單に化粧ばかりではありません。先生が子供を迎へるに就いても、ごの位に笑つたら宜いか。そこらが非常にむづかしい點である。子供の顔を見るに、いきなり教育を受けに來たのかと云つたやうな顔をしましては、今申した任務が果せないし、あなたの心を慰めるためださばかりに、つゝ、笑ふに、先生そんなにお笑ひ下さらなくても宜しうございませう。さういふやうな氣持がするだらうと思ふ。この先生が子供に合致して行く點が非常にむづかしいものであると思ひますが、こゝの所はごの位に笑つて、ごの位の風をしたら宜いか、たゞ漠然たる云ひ方ではありますが、私の云ひたいのは、毎日同じやうな迎へ方をしてやりたいと思ふことでもあります。これが私の幼稚園及低學年先生に始終希望する所でもあります。子供が幼稚園に行き或は低學年の教室にあつち向きこつち向きに入つて居る所に、先生が來るのでありますから、先生が居らうともゐないが如く感じなくてはいかぬ。小さな子供が家へ歸りますと、お母さんがゐる。すると子供は大聲で、「あ、お母さんがゐるた」。そんなにはしません(笑聲)。「お母さんゐるか」ればそれでお仕舞になる。ればそれで安心する。所が今日は頻りに白くなつたりするに、「お母さんさうしたの、お母さんさうしたの」と聞く。不斷の着物さまるきり違つた着物を着たりするに、「何處かに行くの」と聞きます。何處かに行くの、さうしたのといふことは、お母さんらしさから一寸離れて居ります。化粧が大變よく出來ましたね、なんてことは決して子供は云はない(笑聲)。これは子供ばかりではない。この樂に迎へるといふことに就いて、化粧さか着物さか態度さかといふことありますが、むらになることがいけない。今の幼稚園はかなりさういふことがありはしないか心配するのであります。今日は先生機嫌が良いだらうかといふやうなことを子供はかなり心配して來るのではないかと思ふ。それから會ひまして、後から子供がこそくやつて居ります。今日は風向がいゝぜ(笑聲)。所がこれは幼稚園の子供に随分あるのです。殊に低學年になりますと一層子供に奇妙な心遣ひがありはせぬかと思はれる。「今日は靜かに靜かに」(笑聲)なんて云つてやつて居ります。その意味に於て私は

もう少し幼稚園の先生は子供を樂にして褒しいと思ふ。先生はいつでも同じ態度で、居るが如くゑざるが如くであつて欲しい。中には居るが如くゑざるが如くでは甚だ濟まぬ。第一校長に對して濟まぬといふやうなことを考へる人もあらうし、或は、教育者の任務として、居るからには居るようになければならぬ、我々（笑聲）に名乗を上げる人がありますが、先生といふものはさう目立たない方が宜しいと思ふ。殊に低學年教育に於ては、先生は何處かにそつゝ居る人が宜い。子供は幼稚園が濟みまして歸る時先生に挨拶をして歸りますが、居る間は先生は何處に居るか氣が付かない程度でなくてはいかぬ。自分達の家庭でもさうではありませんか。今日は家庭の誰がゐるかといふことは見廻せば分る。一々やあ今日は息子が家に居る、といふやうなことは、放蕩癖の息子か何かであつて、今日はいゝ按配に家にゐてくれるといふやうな場合の外には、不斷家に居る者は、そんなことは考へて居るものではない。私は低學年の先生がその意味に於て餘り自分をボシチブ即ち積極的にせよばらせることなく、ネガチブに消極的にせよばらせることが極めて大切な心遣ひかと思ふのであります。かういふ意味で設備とか方法とか先生とか色々なことに工夫をしまして、一般的任務の外に、都會に住つて居る子供であるといふことを念頭に置いて、出来るだけ勞り休ませ、その中に中樞の生活をして居る彼等を導き得る機會を提供してやることは、大いに考慮してやらなければならぬことであると思考するのであります。